

繪田三三編

箏曲花笈の巻之二

菊池



301

250

鈴木とらこ編



花がさく

第三輯

松風の曲
茶の湯音頭
春の調
さらし

鈴木とらこ編
花がさく
第三輯
茶の湯音頭
春の調
さらし

昭和
44. 1. 16
丙寅



尺八配律表と泰西音符

例言

實際は尺八の(ロ)音が但し一尺八寸の竹にて泰西樂譜の(ニ)音(D)と合ふものなれども讀譜上の便を慮りて特に上表の如くなせり。

尺八の音名は上記の外尚二三あれども普通用ゐるものゝみとなせり、(而してマリは低める(b)の云ひにしてカリは高める(#)の云ひなり)。

配律表を附したるは習得上の資となさんが爲なり若し是れによりて多少の参考ともならば編者の幸福これに勝るものなかるべし。

打テ込ミ掛合トは特別なる場合及び替平等を除く外凡て小形の音符を以て同一の譜表面に記載せり。

樂曲中生ナシ、山アリ又は西ナシ、東アリ等あるは生田流に此の律あり、山田流に此の律なし、西京あり、東京なしの略記なり。

ヴァイオリンの律壺は左表の如く一定せるものにして、二上り、本調子、三下り等の如く其の調絃法を、あらたむることなく、常に(ロ)音を三味線の第一絃に合はせて奏すべきものなり、但し其の曲、二上り、にて始り、三下り、にて終るか又は三下りより本調子といふ順にて其の調子段々に上り其のまゝ終るときは特に(イ)音尺八の(リ)音を三味線の第一絃に合はせて奏すべし。由來箏曲樂の轉調は他流の其れよりも一層頻繁なれば此處には一々圖解せず、諒せられんことを乞ふ。

本編は重に尺八の樂譜を元としてヴァイオリン其の他泰西樂器に弾き易き様作譜したるものなれども尙杜撰孟浪を免れず、讀者の是正を乞ふ。

泰西樂譜に依りて日本音樂(就中箏曲)を記譜するときは再三の轉調に依りて時として音名の轉換を來すことあり、又拍子の緩急抑揚の妙等は師につきて實際に習得するより外なかるべし。

第一絃 第二絃 第三絃 第四絃

ヴァイオリン律壺表

(以下略)

佐藤左久、彌富濱雄の二氏は本書第三輯の編纂に懇切なる同情と多大の援助とを與へられたり、ここに特記して永く其の恩誼を拜謝す

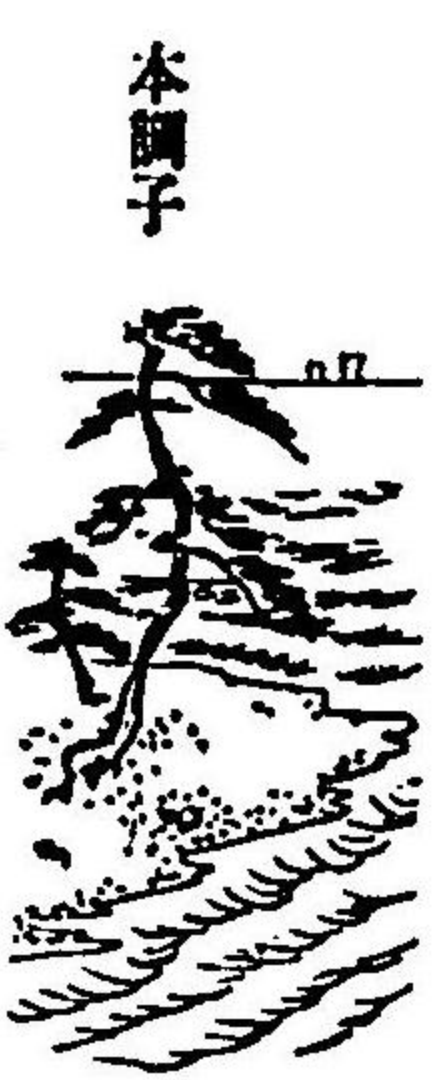
松風の曲

本調子 山本権太郎作

ひさかたの 秋の夜長ながかかれと、なごりはつきぬ筑紫、うみとよぶなり、ゆかりある、磯邊の松を、よく風もおのづからなる、調には、雲井の雁も琴柱して落る、まじく聲をへて心をすませ浪の音、秋風樂やこれならむ、おもしろや松風の調をへゆく、たまごとは、千代のためしに、ひくいとの、ながきよかけて、つきせじとやほよるつよも三笠山、君がめぐみやあふらん。

浦のときやに 秋ふりてうしろに
れず あま人は 離れ ころしそで まじか
きぬたの かとしうら かなり

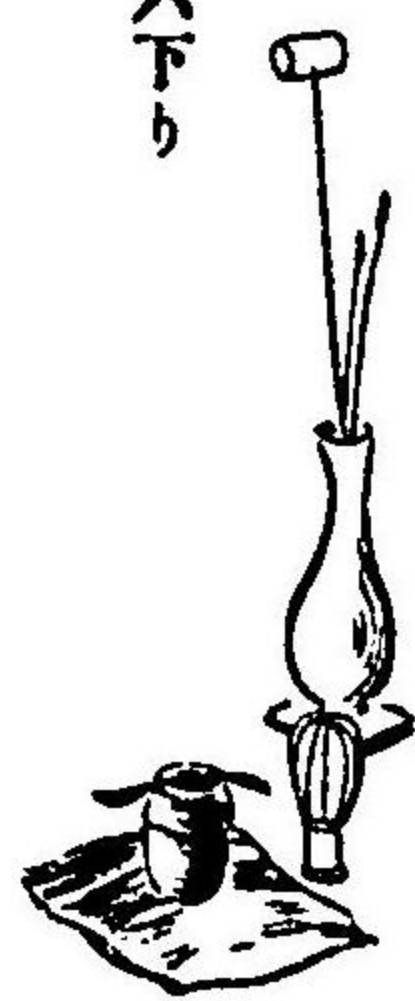
第三輯 歌詞



久々の月桂のかげに、風よきおくる、まさごちを、みがきなしたる光り、うらもねられすあま人は離れ衣そでさむみ砦の音もうらみなり、十編の音遊三編に寝しむかし、しのべは、わりづめの、わりなき仲もなかく、なにうらやりの、うらみごと袖はなみだの、なみがへし、かへるたもとを、ひきれんに、秋の夜長ながかかれと、なごりはつきぬ筑紫、うみとよぶなり、ゆかりある、磯邊の松を、よく風もおのづからなる、調には、雲井の雁も琴柱して落る、まじく聲をへて心をすませ浪の音、秋風樂やこれならむ、おもしろや松風の調をへゆく、たまごとは、千代のためしに、ひくいとの、ながきよかけて、つきせじとやほよるつよも三笠山、君がめぐみやあふらん。

茶の湯音頭

六下り



世の中に、すぐれて、花は芳野山、紅葉は、たつた、茶は宇治の都のたつた、それよりも里は都の、ひつじさる、すきとは、たれか、名にたてし濃茶のいろの、ふかみどり、松の位に、くらべては、かこひといふも、ひくけれど、なさは、同じ床かさり、かざらぬ胸の、うらおもて、扇沙、さばけぬ心からさけばおもはく、ちがひだな、あうて、どうして香箱の柄杓の竹はすくなくれど、そちは茶杓のゆがみもじ、うさをはらしの初昔、むかし話のちやばいと、なるまで釜の中さめす線はくさりの末長く千代よるつよも、

春の調

本調子



春くれば、梅のさ枝に、おのづから、こもれる花の咲きそめて、かをりもふかき、ふかきはや、浪路はるかに、かすみたつ、すききに鹽の引きぬれば海邊にむれて、磯菜つみ、貝ひろひつ、すぐるよを千代もと祝ふ諸人の其のこゑに、誘はれて谷の戸いづる鶯の花すり衣きささぎの、ひかげ、のどけく、吹く風に、うちなびきぬる、青柳のいと、やさしき、たまごとの、音に、ひかされて、いやおひにさかえひ御代を、たのしかりける。

さらし

本調子



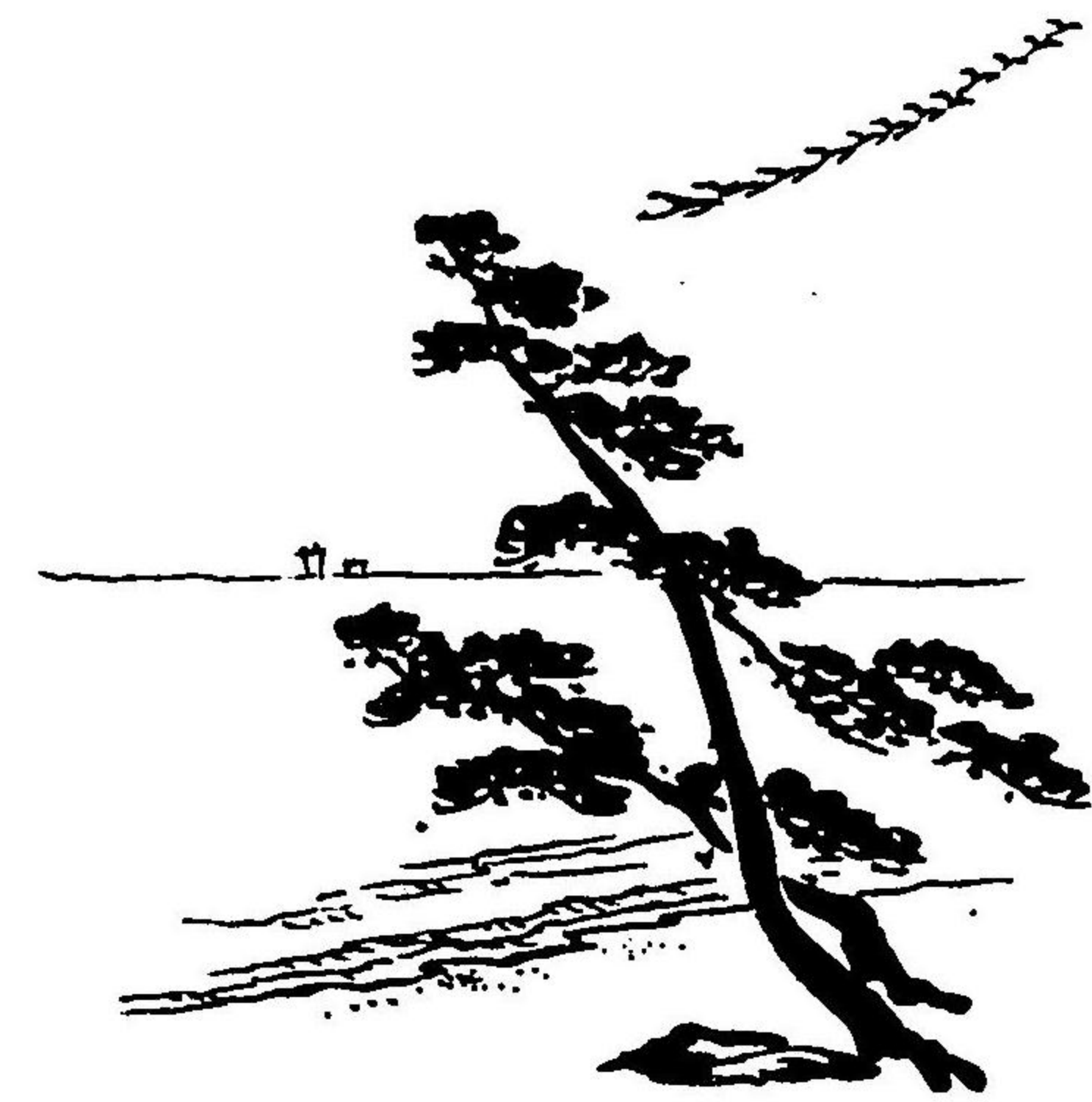
橋の島には、さらす、あまぬの、賤がしわざは宇治川の、浪か雪かと、白砂にいざたちいで、布さらす、かさぎのわたせる橋の霜よりも、さらせる布に白味ありそ、なう、山が見えそ、朝日山に霞たなびく、けしきは、たとへ、するがの、富士はものかは、小島がさきよる浪に、月の光をうつさばや、見渡せば、伏見、竹田に淀島羽も、いづれおとらぬ名所かな、たつ浪は、湖々のあじろにさへられて、ながる水をせきよめよ、ところからとて、布を手毎に、まさの里人、うちつれて、もどらふ、やれ賤が家へ。

2.
 Musical score for page 2, featuring vocal lines with Japanese lyrics and piano accompaniment. The score consists of 13 staves. The lyrics are:
 とよ の す の こ
 ろ か よ に れ し じか し の へ け ち
 り づめ の わり な き な か も な か
 なか に
 なに うら ずりの うら か こ と
 そ で は なか だ の なか が へ し
 か へ る たも と も ひき れ え に あき
 の と なが し なが か れ と なこ
 り は っ き め せ ぎ
 と う み と よき な り い か り

3.
 Musical score for page 3, featuring vocal lines with Japanese lyrics and piano accompaniment. The score consists of 13 staves. The lyrics are:
 あ る け れ ば
 ん ふ け ん じ
 の の ぐ から な る し ら へ に は
 せ きの かり し こ と ぞ し
 て ら つ る まに まに こ ら そ
 く せ じ じ じ じ じ じ じ じ
 く や こ れ な ら せ じ
 せ じ じ じ じ じ じ じ じ
 せ じ じ じ じ じ じ じ じ
 せ じ じ じ じ じ じ じ じ
 せ じ じ じ じ じ じ じ じ
 せ じ じ じ じ じ じ じ じ
 せ じ じ じ じ じ じ じ じ

Musical score for page 4, consisting of 12 staves of music in G major and 3/4 time. The score includes various rhythmic patterns and melodic lines.

Musical score for page 5, consisting of 5 staves of music in G major and 3/4 time. The score includes various rhythmic patterns and melodic lines.



小節重複一與前同

春の調

春調子

長勢勝男都調

はるく らば うめの さとに かのづ かり
 こゝろ 花の さとを へて
 ことり と 上かき 上かき は * 6 さと 136
 か に * * * * * っ
 とき に し は の う
 と の らば 遠くに 歩いて いそ
 な っ *
 見ひろ ひつつ すぐも よと *
 と と いはふ 舞 び と の
 春の こゝろ には さきは らく *
 の へ いち ろ 3と う ず

花 けり じか と ささ ぎ の う * 17
 のち し ぶき せ に
 3と 6 びら め も る *

Musical score for page 12, consisting of 12 staves of music. The notation includes various note values, rests, and dynamic markings. The music is written in a single system across the page.

Musical score for page 13, consisting of 8 staves of music. The notation includes various note values, rests, and dynamic markings. Below the staves, there are several lines of lyrics in a non-Latin script, possibly Japanese or Chinese characters. The lyrics are: ちのしかりて (ちのしかりて).



14.

さらし

木洵子

深草格 作曲

Musical score for page 14. It consists of 13 staves. The top staff is a vocal line with lyrics written below it. The subsequent staves are piano accompaniment. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings like 'rit.' and 'ar.'. The lyrics are in Japanese characters.

15.

Musical score for page 15. It consists of 11 staves, all of which are piano accompaniment. The score continues from the previous page and includes musical notations such as notes, rests, and dynamic markings like 'rit.', 'ar.', 'do.', and 'a tempo'. The piece concludes with the word 'rit.' on the final staff.

★ 囀りの(合の子)は二重太鼓子にて記譜し了り、恐ることなくんばあり。

よる とも に こじ とも き に
 よる とも に 月 の かり
 と うつ さ ぼ つきの ひか り と うつ
 さ ば や
 サシメテ
 見 渡 し ば
 みわたせば 伏見 竹田 に 渡鳥 飛 べ づ け おごらぬ 名所 かな
 いづれ おごらぬ 名所 かな
 たつ ぬま は たつ ぬま は 湖 々の おごらぬ

おごらぬ 名所 かな
 と とも とも とも とも とも とも とも とも
 と とも とも
 サシメテ
 おごらぬ 名所 かな



こ こ り ら と と と と と と と と



り ら と と と と と と と と



り ら と と と と と と と と

rit. ar. da do.



り ら と と と と と と と と

北村先生作譜音樂書

| | | | |
|-----|------|---------|-------|
| 第一編 | 須磨の曲 | 定價金貳拾五錢 | 郵税金六錢 |
| 第二編 | 離れの島 | 定價金貳拾五錢 | 郵税金六錢 |
| 第三編 | 露の夢 | 定價金貳拾五錢 | 郵税金六錢 |

北村先生作譜音樂書

| | | | |
|-----|------|-------|------|
| 第一編 | 鶴進 | 定價金壹圓 | 不要郵税 |
| 第二編 | 越後 | 定價金壹圓 | 不要郵税 |
| 第三編 | 老翁 | 定價金壹圓 | 不要郵税 |
| 第四編 | 元祿 | 定價金壹圓 | 不要郵税 |
| 第五編 | 道成 | 定價金壹圓 | 不要郵税 |
| 第六編 | 小鍛 | 定價金壹圓 | 不要郵税 |
| 第七編 | 吾妻 | 定價金壹圓 | 不要郵税 |
| 第八編 | 秋の景色 | 定價金壹圓 | 不要郵税 |

一筆曲地久節 定價金五拾錢 郵税金六錢

北村季晴先生校閱 邦樂全集

| | | | |
|-----|----|--------|-------|
| 第一編 | 元山 | 定價金四拾錢 | 郵税金六錢 |
| 第二編 | 元山 | 定價金四拾錢 | 郵税金六錢 |
| 第三編 | 元山 | 定價金四拾錢 | 郵税金六錢 |
| 第四編 | 元山 | 定價金四拾錢 | 郵税金六錢 |
| 第五編 | 元山 | 定價金四拾錢 | 郵税金六錢 |



鎗田先生作譜音樂書

一筆曲花がたみ第一輯 定價金四拾錢 郵税金六錢

- 第一輯 定價金四拾錢 郵税金六錢
- 第二輯 定價金四拾錢 郵税金六錢
- 第三輯 定價金四拾錢 郵税金六錢
- 第四輯 近刊
- 第五輯 近刊
- 第六輯 近刊

製複許不

明治三十四年十月廿五日 印刷
明治三十四年十月廿八日 發行

(定價金四拾錢)

編輯者 鎗田倉之助
發行所 東京市芝區芝公園第十八號地五番 益商社書店
右代表者 白井直
印刷所 東京市芝區芝公園第二丁目十七番地 益商社書店
發行所 東京市芝區芝公園第十八號地五番 益商社書店
電話 芝五二七
振替口座東京一五八〇



